

### (資料3)

## 各県コメント

### 「コロナ禍がこども食堂の増減に与えた影響について」

#### ・増加が確認された県の声（一部）

##### 【青森県】

コロナ禍のせいで、青森市内では一時的にほとんどのこども食堂が開催を見送っていました。ただ、弘前市や五所川原などの地域では無料お弁当の配布などで臨機応変に対応していました。また、県と国が進めているこども居場所作り事業で新しいこども食堂も大幅に増えています。なので、青森県全体としては若干増えたように感じます。

（弘前大学ボランティアセンター）

##### 【茨城県】

今回の調査では算入しませんでした。特に臨時休校中などコロナ禍での長期休校中限定で活動に取り組んだこども食堂も少なくありません。こちらが把握しているだけでも、少なくとも6つのこども食堂が臨時的に存在しました。その担い手には、地域で店舗を構える飲食店やまちづくり会社も含まれます。こうした動きは、その他一般的な市民活動ではほとんど見られません。多くの市民が共感、応援、参加し、活動開始の敷居が低いこども食堂ならではの現象だったと思います。冬季に向けて新たな感染の波が懸念される中、いくつかモデルが生まれたと思います。

またこの調査で数字としては表れませんでした。コロナ禍で活動休止となってしばらく経っているところも少なくありません。しばらく休んだ後の活動への意欲、また過度に自粛を求める地域の目線が活動再開への阻害要因になっていると思います。フードパントリーや宅食、テイクアウト型などに活動を切り替えて、従来型の活動に戻ってはいないところもあります。そういう意味で、量的変化よりも、質的变化の方が大きいのではないかと考えます。一方、このコロナ禍において、6つのこども食堂が新たに従来型の活動を始めました。他にも開設予定のところ、また開設のための相談も何件かこちらで受けており、従来型の活動が衰えたとも言えません。

（こども食堂サポートセンターいばらき）

##### 【神奈川県川崎市】

コロナ禍が猛威を振るい、緊急事態宣言が発令され、今まで経験したことのない、目に見えない不安にかられた。その中で、こども食堂の開催をどうすべきか、大変悩み苦渋の決断を迫られました。結果として、会場である市民館や飲食店の休止等を鑑み、やむなく休止の措置を3月～5月迄とっていたところが多いと感じました。また、再開について個別に電話などで問い合わせた際に、「こども食堂のあり方」について悩みを抱えているところは継続して休止の措置をとっているようです。一方で、休校となったため給食がなくなりお昼を食べることができない子どものために新たに期間限定でこども食堂を開始される方もおられました。コロナ禍によって思ったのは、こども食堂をどのように続けるのか？

誰のために・何のために開催するのか？ 立ち止まって考えるきっかけとなりました。再開しても、人数制限や感染拡大防止等の観点で、消毒の強化等もあります。以前は会食形式であったが、毎月1回程度の食事を提供してはとて意味がないとパントリー形式に変える団体もあります。地域性による部分が多い事ではあるが、目に見えない困窮者・誰にも相談したらいいかわからないという人がいない世の中になってほしいと思っています。

（かわさきこども食堂ネットワーク）

##### 【鹿児島県】

鹿児島県内のこども食堂増減について、コロナ禍においても予想以上に増加している。また、開設準備を進めている食堂もあり、これからの増加も期待できる。県の新規開設補助やネットワークと連携したアドバイザー派遣などの制度もその一翼をになっていると考えている。

（かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク）

## ・ その他コメント（一部）

### 【宮城県】

コロナ禍の感染拡大と子どもたちを取り巻く環境・状況の急激な悪化を前に、活動の継続・転換・休止の選択を子ども食堂は迫られました。どの選択も、子どもたちの状況を知っているからこそ、苦渋の選択でした。また、選択後も苦しい思いをしている団体がたくさんあります。活動の内容・スタイルの転換を選択した団体は、これまで以上に経費がかさみ、寝る間を惜しんで資金調達と寄付物品の確保に駆けずり回りました。夏頃になると、体調を崩す方も少なくなく、資金・人員の確保だけではない課題も出てきました。

このような時こそ、団体同士のつながり・支え合いが必要と感じ、今、宮城ではネットワークと寄付共有システムの構築に力を注いでいます。また、自治体へ要望書を提出し、急遽子どもの食を支える事業を立ち上げていただきました。

コロナは、子ども食堂が大切にしてきたものを奪いましたが、今回の経験から学び、これからの備えてまいります。子どもも大人も団体も、ひとりではなく、つながりながら「これから」を官民間わずあらゆる垣根を越えてみんなで作っていききたいと考えています。

（特定非営利活動法人せんだい子ども食堂）

### 【福井県】

コロナ禍で、休止している子ども食堂さんも多くおられます。福井県のように田舎の小さな町になると、子ども食堂を開催することに「コロナなのに！」と激しく反対をされる地域もあります。地域の皆さんの理解が必要で、コロナの中でも「何が大切なのか」を地域や、子ども食堂全体で考えていけるように県内子ども食堂のネットワークの早急な設立が必要だと感じています。

（福井県内子ども食堂運営者）

### 【福岡県北九州市】

福岡県では、市町村で独自の支援制度がある地域や都市部周辺では、新規開設が見受けられますが、そのほかの地域では、調査上での箇所数の増減はあまり変わらないものの、休止している子ども食堂が比較的多いのではないかと思います。

また、新設数でも都市部と郡部では差があることから、各県の間支援組織などを中心に新設や再開に向けたセミナーなどの開催や情報共有が出来る場の設定など、研修制度や情報発信の仕組みづくりを県単位でも構築していく必要があるのではないかと考えています。

（子ども食堂ネットワーク北九州）